

## 内外彙報

**第三十七回史學會展覧** 今年の史學會は五月十日小石川原町酒井忠正伯爵邸に開催、同家所藏の什寶を展覧した。點數二十二。此等の中、美術に關する重なるものに就て云へば、書に後水尾天皇宸筆御懷紙、靈元天皇宸筆御消息、同御色紙、藤原佐理消息各一幅があり、繪に直幹申文繪詞（國寶）、道成寺緣起各一卷、藝愛筆花鳥圖（重要美術品）、宗達筆草花圖、抱一筆三十六歌仙色紙貼付各屏風一雙、雪村筆壽老猿猴三幅對、酒井忠以筆布引之瀧對幅、同有馬溫泉圖一幅等があつた。就中、直幹申文繪詞については特に云ふ必要はないが道成寺緣起は清水寺の僧賢學の物語を主として紀伊道成寺所藏の同名緣起二卷（國寶）とは稍その説話を異にして、寺の緣起を説いたものではなく寧ろ日高川雙紙或は賢學雙紙の名を以て稱した方が適切な様に思はれるものであり、卷末に延寶五年光起が廣周の眞筆と鑑した添狀の貼付がある。又藝愛筆花鳥圖屏風六曲一雙は甚だ元信様に近いものであり、兩隻に藝愛なる重廓朱字方印ありて、從來畫蹟のみ二三世に存して傳記の全く不明である藝愛の研究にとつて甚だ好資料と思はれるものであつた。（編輯部）

**美術研究所特別展觀** 美術懇話會は去る五月二十三日左記の東京所在の法然關係の繪卷四點を蒐め、田中一松氏の講話を聞いたが、わが美術研究所は之を機として翌二十四日之を一般研究者の展覧に供した。法然上人繪傳の大規模な展觀は曾て昭和七年四月恩賜京都博物館の手によつて行はれ、當時の主要な資料は殆んど博搜し盡された感があつたが、なほその後の發見にかゝるものも必しもなくはなかつた。今次に借覽した前川家本の如きその中で、この一卷は所謂琳阿本の第八卷に當り、團家の第七卷に直ちに續き、兩卷正しく一本中のものであるが、今次親しく之を比較し得た事は何より欣ばしかつた。増上寺本、西

脇家本は共に豫てより有名ながら、この四本の全卷を大體に一時に披き且つ直接に對看し得たのも却つてかゝる小展觀なりし爲に得た便益であつたと思ふ。茲に之等貴重な名品を快く貸與せられた諸家の厚意に深甚な謝意を表し度い。

（渡邊）

法然上人繪傳 紙本著色 一卷 高三・七寸 一尺七寸九厘  
長一三六・八寸 一尺四寸四分

男爵 團 伊能氏藏

法然上人繪傳 紙本著色 一卷 高三・一寸 一尺九寸二分  
長一四二・八寸 一尺四寸三分七分

前川 道平氏藏

法然上人傳 紙本著色 二卷 高三・三寸 一尺八分八厘  
長上卷一〇〇・八寸 一尺三寸九分五厘  
長下卷一〇〇・九寸 一尺三寸六分八厘

増上寺藏

拾遺古德傳 紙本著色 一卷 高三・九寸 一尺二寸九分五厘  
長一六二・六寸 一尺五寸六分八厘

西脇 濟三郎氏藏

因に懇話會當日の目錄に西脇家本の長さ四一・七・九寸（一三・七寸六分）とありしは誤につき訂正す。

## 美術研究所時報

五月二十三日美術研究所に於て美術懇話會が開かれた。最近一二年間に國寶に指定された法然繪を主として諸家より借用展觀し、田中一松氏の講演を聞いた。